



6月11日開催された全国革新懇第25回総会



No.373

編集発行人 中西三洋
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連
会館
電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
振替 00110-6-97793
定価 50円

侵略戦争に反対した人々に 謝罪と賠償を求める同盟の強化

新懇の役割は、いっそう重要さを増しています。ブッシュ政権の戦争政策に追いつく小泉政権は、改憲と自衛隊の強化、軍国主義を謳歌する「靖国参拝」や「歴史教科書」づくりを進めるなど、アジア二千万人の命を奪った過去の日本の戦争犯罪を省みず、挑戦的姿勢を強めています。

私たち同盟は全国革新懇の一翼をにない、命がけで反戦平和を闘った治安維持法犠牲者に対する国の謝罪と賠償を求めるとともに、正しい歴史認識を広めるために学習し、大いに同盟会員をふやしましょう。

今年は戦後六〇年、被爆、沖縄戦終結から六〇年、日米安保条約改定四五年にあたります。第二次世界大戦の教訓から、戦争・武力の行使を違法とする国連憲章が定められ、今年開かれたNPT(核不拡散条約)再検討会議でも、核兵器廃絶を求める国際世論の大きな高まりを見せました。世界に先駆けた不戦の日本国憲法を守れとよびかけた「9条の会」の広がりは、日本全土に大きな世論をつくりつつあります。在日米軍基地再編強化に反対する沖縄、神奈川はじめ自治体・住民ぐるみの劇的な発展など、非同盟・中立の日本を求める流れも強まっています。憲法を守り日米安保に反対して結集する全国革新懇の役割は、いっそう重要さを増しています。

主 な 記 事

- 会員拡大に新風を！……………2
- 国会請願紹介議員一覧……………3
- 手記・六〇年目の夏……………4
- 顕彰碑／村瀬清一……………5
- 時の焦点／『危い教科書』を子どもたちに渡すな……………5
- 抵抗の群像／没後七〇年 今野大力を学ぶ……………6

会員拡大に新風を!

—各地の動き—

「拡大袋」で会員拡大

青森県 小野俊子

青森県本部は6月を、拡大期間にして頑張っています。

五月の理事会で、「拡大袋」という意見が出され、五味会長名の入会のよびかけと入会申込書・署名のリーフをセツトしました。

組になって行動し、五月下旬から六月にかけて二十二名の会員を拡大しました。六月二十三日には一日で十四名拡大できました。短期間にこのような拡大ができたことに驚くと同時に、今までいかに訴えてこなかったかと反省もしています。

今年の東青母親大会で、「時代を撃て・多喜二」の記録映画を上映しました。その時資料の中に同盟の署名のリーフを入れてもらいました。映画を観て感動した女性たちが「国賠同盟」という組織がどんな組織か初めて分かりました。私入ります」と二人で入会してくれました。多喜二の映画の素晴らしさと共に、五味会長を先頭に、い

つも署名行動をしている国賠同盟の姿がみんなに見えてきた成果でもあるのだと思っています。

集中して足をふみだそう

香川県 久保文彦

県本部は「会員拡大」自主目標二百名達成をめざして奮闘、六月二十五日現在、一八八名まで到達しています。あと一歩です。これまでに、三支部が目標達成です。

県本部は、ここ一三年総会のたびに「二百名の会員を」といつてきましたがいづつもかけ声だけで終っていました。私は、同盟中央の会員拡大の提起を香川にとつて、のつびきならないものとして受けとめ足を踏みだしました。靖国問題をはじめ改憲策動を打ち破り戦争する国づくりにとどめをさすことができるのは、治安維持法国賠同盟です。この戦列を強めるためにぜひお力を」と訴えると殆んどの人が「いいですよ」と快く入会申込書に署名してくれます。ある支部長も「私たちの入会の呼びかけを待っていたような人もいます」と

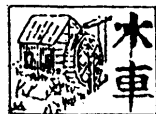
いつています。まさに「同盟出番を実感することができました。」

目標四五〇にあと二八名

福岡県 橋本幸夫

福岡県本部の会員拡大は五月二十六日の中央常任理事会の方針、決定を受けて以降六月二十五日の一カ月間で三十二名の会員を迎えて県本部目標四百五十名まであと二十八名となりました。十八日の県本部理事会では七〇%の県役員が出席して第三回全国大会の活動報告と運動方針(案)を討議して会員拡大の先頭に立つて活動することを決め、入会申込書を各人に五枚渡しました。

この間のとりくみでは、大牟田支部が十四名拡大して七二名となり福岡支部が十四名拡大して一九五名。筑後支部は二名の弁護士を賛助会員として迎えました。福岡支部の十二名の拡大のうち橋本県本部事務局長が十一名拡大し、五名は映画ひだるか上映応援団よびかけ人会議で、二名は福岡いしずえ総会で、一名は劇「真珠の首飾り」で、三名は知人に気軽に声をかけ、入会申込書にボールペンを添えて入会してもらいました。



▼東京・葛飾区のマンションピラ配布弾圧事件も6月20日第2回目の公判を迎えた。この公判を通じて

て本人と弁護団は、当然「特定の政党の政治活動への弾圧を目的とする不当な逮捕・起訴」と指摘。直ちに控訴棄却を求めた▼2回とも傍聴したが、百人余の参加者が、異口同音に日本共産党の「葛飾区議団だより」「都議会報告」「区民アンケート」の配布が「なぜ犯罪になるのか、ますます疑問が深まった」「犯罪ではないという確信をもった」と語っている▼さらに、ピザ屋すし屋などが日常的にやっているチラシ配布とどこが違うのか、警察、検察がどうやって犯罪に仕立て上げようとしているのかを監視しようと思気込んでいる▼地元では、公判のたびに数百人の報告集会を開き、不当弾圧を許さない、言論の自由をまもろうと運動は日増しに大きくなっている。また、公判に参加して「私もピラをまきます」とピラまきに参加する人も増えてきています。(針)

国会請願紹介議員一覽

6月22日現在

*印は新

衆議院

自由民主党

谷畑 孝

社会民主党・市民連合

山本喜代宏
土井たか子
横光 克彦

民主党・無所属クラブ

* 安住 淳

石井 一

市村浩一郎

大島 敦

奥村 展三

笠 浩史

* 小平 忠正

小宮山洋子
* 末松 義規
辻 恵

* 中根 康浩

* 長浜 博行

* 中山 義活

* 生方 幸夫

* 肥田美代子

* 平岡 秀夫

* 平野 博文

* 古本伸一郎

* 本多 平直

* 山内おさむ

* 渡辺 周

* 阿久津幸彦

金田 誠一
* 計屋 圭宏
古川 元久

* 佐々木秀典

* 細川 律夫

* 細野 妻志

* 寺田 学

* 鹿野 道彦

* 篠原 孝

* 手塚 仁雄

* 小泉 俊明

* 小林 憲司

* 小林千代美

* 松崎 公昭

* 松崎 哲久

中川 治
中川 正春
中村 哲治

* 田中 慶秋

* 田島 一成

* 土肥 隆一

* 島田 久

* 藤村 修

* 藤田 幸久

* 榑崎 欣弥

* 楠田 大蔵

* 鉢呂 吉雄

* 樋高 剛

* 北橋 健治

* 牧野 聖修

中川 治
中川 正春
中村 哲治

* 田中 慶秋

* 田島 一成

* 土肥 隆一

* 島田 久

* 藤村 修

* 藤田 幸久

* 榑崎 欣弥

* 楠田 大蔵

* 鉢呂 吉雄

* 樋高 剛

* 北橋 健治

* 牧野 聖修

日本共産党

赤嶺 政賢

石井 郁子

* 穀田 恵二

* 佐々木恵昭

* 志位 和夫

* 塩川 鉄也

* 高橋千鶴子

* 山口 富男

* 吉井 英勝

参議院

* 田村 公平

* 世耕 弘成

自由民主党

* 堀込 征雄

* 鈴木 康友

* 鈴木 康友

* 鈴木 康友

* 鈴木 康友

* 鈴木 康友

小池 晃

* 小林美恵子

* 大門 実紀

* 仁比 聡平

* 吉川 春子

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

無所属

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

* 鈴木 陽悦

年度別国会紹介議員

(うち新紹介議員三三名)

一九九四年	三三名
一九九五年	六二名(+24)
一九九六年	六九名(+7)
一九九七年	七四名(+5)
一九九八年	八九名(+15)
一九九九年	一四四名(+26)
二〇〇〇年	一四〇名(+25)
二〇〇一年	一五一名(+11)
二〇〇二年	一六〇名(+9)
二〇〇三年	一七四名(+14)
二〇〇四年	一四五名(+29)
二〇〇五年	一二九名(+16)

民主党・緑風会

* 足立 信也

* 福島みずほ
* 淵上 貞雄

社会民主党・護憲連合

* 山下八州夫
* 和田ひろ子

* 水岡 俊一

* 峰崎 直樹

* 藤本 祐司

* 前田 武志

* 市田 忠義

* 井上 哲士

* 緒方 靖夫

* 紙 智子

日本共産党

衆議院議員 計九一名

参議院議員 計三三名

合計 一二九名

六〇年目の夏

敗戦を迎えた時

今年は日本が、あの無謀な侵略戦争に敗れて六〇年目の節目の年です。今回はお二人の方に当時を思いを寄せていただきました。

敗戦・解放

東京 中西三洋

八月十五日、当局から重大放送を全館放送するという伝達がありました。正午に始まった天皇の放送は、雑音まじりのうえに常人はなれした発音で、ろくに聞きとれませんでした。放送がつづくにしたがって拘置所のなかがしんと静まりかえっていき、日本がボツダム宣言を受諾して戦争が終わったことが、収監者にもわかりました。

兄は、刑務所のなかでとぼしい情報をもとに、ソ連参戦の可能性、日本政府の戦争終結の方策などについて分析していて、日本の敗戦の近いことを私たちに知らせてい

ました。日本帝国主義の敗北によって戦争が終結したことが確認されると、獄中の政治犯のうごきは活気をあびてきました。これまでの私たちの関心事は、戦争はいつ終わるかにあつたのですが、敗戦以後の関心はわれわれはいっせに釈放されるかに変わっていききました。看守たちは、これから私たちはどうなるのでしょうか、これからはあなたたちの時代ですねなどと、お世辞がわりに話しかけてきました。主客が転倒しました。

＊

＊

十月十日、午後一時をまわっていました。豊多摩刑務所の正面前には赤旗が林立し、インターナショナルを合唱する声が天を突かんばかりの勢いです。私たちがそれまでわれわれを閉じこめていた高いコンクリートの塀に囲まれた刑務所の正門に姿をあらわすと、わーっという歓声があがりました。一〇〇〇人ほどの歓迎の人ごみのなかを私たちはすすんでいったのですが、万感胸にせまり、最初はハンカチで涙をふいていました。が、もう中ごろまでですんだときには涙があふれて歓迎の人びとの顔もかすんで、握手攻めにあいな

がらすすみしました。このときほど釈放されたのだという実感をもったことはありませんでした。

釜石艦砲射撃の体験

釜石市・千田ハル

ことは戦争が終わって六十年、釜石が艦砲射撃をうけたときのこと、なまなましく思い出されます。それは一九四五年の七月十四日と八月九日の二度も攻撃されたのでした。

釜石湾に七月は米艦船十四隻、八月には二十二隻も陣取って、それぞれ昼近くから二時間、五〇〇〇発をこえる集中砲火を浴びせたのです。

当時の釜石の人口は、いまと同じくらしいの四万五千人ぐらいでしたが、市内からの産業報国隊や女子挺身隊はもちろん、全県から徴用令で人があつめられ、学生動員で師範学校の生徒や女学生が寮から工場にかよっていたのです。

この二度の艦砲射撃で亡くなった人は、中村幹二さんという方の調査によると一〇三五名となっております。

私はその時、製鉄所でタイピスト見習いをしていました。突然の空襲警報のけたたましいサイレンで、職場の人たち三十人ぐらいとともに、近くの防空壕にかけこみました。ヒューッ ドカーンと空気を引きさく音と、ズシューンと体にひびく爆烈音が、二時間もつづき、泣きだす人もありました。

二回目の翌日、会社に出て片づけをしながら、いろいろな情報が次第に伝わってきました。駅前の防空壕では学徒動員の十五歳の二人もふくめ、三十五人が全部亡くなり、掘り出して並べられていたそうです。港に近い嬉石の山では、防空壕で七〇名が亡くなりました。港からの艦砲なのに山カゲの地域の社宅では被害も多く、一回目に防空壕で弁当をわけて食べた友人は、弟さんと押入れて亡くなつてしまいました。

それから一週間たらずで終戦でした。何も疑うこともなく、正義の戦争と信じてたかった私は、多感な二十一歳で、敗戦というショックで、呆然、虚脱状態の毎日でした。それでもゆっくり眠ることができ、電灯も明るく見えまし

顕彰碑

和歌山市・市営共同墓地

無名のまま二〇年

村瀬清二の碑

東京・南葛労働者だった村瀬清二は、三・一五弾圧前後の頃、大阪・泉州の鉄工所へ。そこで無産者新聞を通じて知りあった楠山通氏の推せんで和歌山に。和歌山労働者組合は全農県連と同一事務所であり、村瀬は全農県連の山中武雄の裏切り行為と常に対立していた。

村瀬の死を悼む労働者らは、メンバー参加者に墓前祭のよびかけピラを準備しつつ、雑賀崎から青石を舟と荷車で市営共同墓地に運び碑を建てた。墨やペンキで名前を書くとき、特高が削りとった。この事件を同年片山潜がコミンテルン執行委員会で報告している。

一九二九(昭四)年一月一九日酷寒の深夜、村瀬は事務所入口で山中に匕首で刺され、同志の家へ逃れる途中力つきて斃れた。

山中は「共産主義者だから殺した」とうそぶき、刑も三年、実際は一年半足らずで出所している。



戦後、一九四九年五月、発起人二七名が当時共に闘った人びとにカンパを訴え、文字が刻まれた。「革命の戦士むらせ・せいじの碑 一九二九年一月一九日反動の凶刃にたおる」。裏には「建設後無名のまま二〇年 戦前の同志相よつて再建す 楠山通撰」とある。

一九九二年、市が墓地の整備調査。私が閲覧した墓籍台帖には、当時の使用者中口安吉の名前はあったが、埋葬者は空白だった。同志の墓を守る労働者の秘策だったのだろうか。

今年一月一九日の七七忌、赤旗の歌を歌い、碑前祭を行なった。(和歌山県本部長 藤澤弘太郎)

時の焦点

「不屈」五月号・松田一男さんの「教科書検定と治安維持法の復活」が、詳細に問題の重大さを解明されていますが、いよいよ教科書展示会をへて、八月には来年度から使用の中学教科書がきまります。

いま、小泉首相の靖国参拝とともに、「つくる会」の危険な歴史・公民教科書の検定合格が、中国・韓国はじめアジア諸国、さらにアメリカ、全世界の怒りを買っています。靖国神社・遊就館の「大東亜戦争」賛美を国民の間に浸透させる危険な意図と、「つくる会」教科書の狙いの寸分違わぬその本質がますます明らかになっていきます。

「つくる会」は、前回の0.1%未満という惨めな採択率への「リベンジ(復讐)」を呼号してなりふり構わぬ策動を続けています。自ら言い出した検定審査中の禁止事項を破って、三回も厳重注意を受けても、文科省はこれを合格とし、中山文科相自から「従軍慰安婦、強制連行なかった」の暴言をくり返し、この教科書への肩入れと他社の教科書への牽制

『危険教科書』を子どもたちに渡すな

＝中学教科書採択目前に迫る＝

識が、こうした政治的圧力で踏み破られつつあります。つくる会と自身も、政治権力や教育関係のさまざまな庇護をうけながら、各地で宣伝や組織的活動をつよめています。

こうした教育と子どもたちの上においかぶさる凶悪な企みに対しては、全国各地で教職員組合、市民団体、父母の会などによる「危険教科書を子どもたちに渡してはならない」との活動が広く展開されています。

事態の重大性、緊急性をひろく宣伝し、憲法・教育基本法改悪阻止のたたかい、靖国問題「のとりくみ等と結びつけて創意ある運動を急速につよめて行きましよう」。

(丁)

抵抗の群像

没後七〇年
今野大力を学ぶ

山崎 元

(東京都本部副会長)

こしは今野大力没後七〇年。六月、詩碑のある北海道旭川と、墓のある東京・多磨霊園とで記念集会が開かれました。没後七〇年といえは三年前が岩田義道、一昨年が小林多喜二、去年が野呂栄太郎、こしは今野大力をはさんで来年はたとえ今村恒夫と、相ついでおなじ悲運の節目の年を迎えています。

日本が十五年戦争を開始した当時、いかに反戦平和を唱え、国民の生活と権利獲得に立ち上った、すぐれた抵抗者たちが弾圧迫害されたことか。

今野大力については、すでに二〇〇三年十二月に、同盟北海道本部道北支部がまとめた『もつと知りたい今野大力』でその革命的生涯を知ることができました。この労作を通じて、佐藤比佐良さんはじめ、造詣の深い今野大力研究者

が数多く道北地方におられることも知りました。

四回にわたる連続講座の紹介を中心としたこの小冊子『もつと知りたい今野大力』と、二〇〇〇年に来道して当地での講演記録、土井大助さんの『花の詩人・今野大力』とが、好個な入門書。読み終えて今後とくに東京での活動の足跡発掘への意欲を実感しました。

「今野大力(こんのだいりき)一九〇四—一九三五年」 詩人。

戦前の不屈の日本共産党員。宮城県伊具郡金山町に生まれ、三歳で家族とともに北海道旭川に移住、以後現名寄市、深川市をへて旭川にもどり、事実上の郷里とする。郵便局で働きながら独学で詩作をはじめ、一九二九年から東京に定住、三〇年に日本プロレタリア作家同盟加盟、三二年に宮本百合子

のもとで『働く婦人』の編集に参加、同年三月のプロレタリア文化運動への弾圧にさいして逮捕、拷問による重病のため人事不省のまま釈放され、健康を破壊されながらも屈することなく、三三年に野呂栄太郎・宮本顕治の推せんて日本共産党に入党。宮本顕治の連絡事務など受けもったが、ふたたび病床についた。三五年六月に東京の病院で死去。不屈のたたかいと闘病の姿は宮本百合子の小説『刻々』(三三年)、『小祝の一家』(三四年)などにえがかれている。『今野大力・今村恒夫詩集』がある。『社会科学総合辞典』新日本出版社)

私自身そうでしたが、とかく今野大力と今村恒夫への理解が混同されがちです。ともに詩人。大力が上京直後、二人は文芸戦線社で同宿していたこともあり、また今村恒夫が小林多喜二と同時に逮捕されたあと、大力が今村恒夫の「赤旗」配布の後釜を引き受けています。やはりなによりも、名前の頭に『今』の字がついているのが、混同の原因でしょう。

三二歳の短かい生涯ではありましたが、独学での詩作は十七歳か

らといわれます。耳目をあつめたのはその処女作的一篇。

我が願ひ

おお 平坦な地平に

人は皆打伏す時

私は一人楼閣を築かふ

人が又我を真似るならば

私は地下のどん底に沈む

(中略)

人は都に憧るゝ時

私は田舎を慕ふ

人が田舎を慕ふならば

私は都会の真中に住む

あらゆる人間の嗜好の反対に向かつて

私は奮進しやう

異端者の我は

あらゆるものゝ反対にと

常に我は祈る

十七歳。思春期の反抗心。あえて歪曲屈折反逆の心情吐露の中

で、すでにみずから異端者と心得たあたりに、今野大力、将来社会変革の思想形成への萌芽を讀みとることができましよう。

同盟歌壇

碓田のぼる選

新潟県 加茂川ハル子
 一瞬に脳出血で逝きし友をうらやましという老いしわれらか
 民営化のもたらせるものは何なるか福知山線事故は問いたり
 〈評〉一首目は老い來し者の心の深いところをのぞかせる。高齢者にとって生きがたい政治への批判を含んでいよう。

静岡県 志良以 孝
 国の為死ぬと称える靖国よわが兄は父母の地にありてねむる
 皇国のために殺されし兄は怒りつつ黄泉に靖国を拒みていんか
 〈評〉作者の兄はミッドウエー海戦で戦死したという。日本はそれ以降、転落するように、敗北への道へ進みはじめた。

静岡県 江川 佐一
 父の手を曳きつつ降る階段のわれになかりし父への思い
 野ぶどうは地に低くして風の中ちいさなちいさな花つけて揺る
 〈評〉一首目は父恋い歌である。二首目の原作の二句、三句「地にとどかざり風まかせ」であった。下句は野ぶどうへの愛着

東京都 若林 義文
 憲法無視の天皇なりし米書より半世紀経て暴露されたり
 鎌倉の九条の会結成の日なり梅雨なか二千余つどう
 〈評〉一首目、どんなに偽装しよう、歴史は事実を貫いていくという事である。二首目、地域での九条の会の発展の様子。

埼玉県 寺島 清文
 肩肘の力を抜いて生きたいが平和の危機がそこまで来ている
 自己確認他者との交流短歌に今求められている何かがある
 〈評〉二首の作品、いずれも口語発想で、外とかかわる作者の内
 部を歌っていると言えよう。後歌はやや抽象的、内省的である。

東京都 山崎 元
 はげましの山古志からの米とどくふつふつと湧く都議選必勝
 〈評〉都議選の雰囲気伝わってくる。

書棚

『未来をひらく歴史―

東アジア3国の近現代史』

高文研 一、六〇〇円

三国共同編集の東アジア三国近現代史「未来をひらく歴史」が完成した。この企画を聞いたとき、「すばらしい試み」と思う反面、大変な難事業だとも感じた。侵略と戦争の帝国主義の道をつき進んだ日本と、その植民地として苦悶した朝鮮や列強に従属を強いられた、長い日本との戦争をたたかった中国との、相反する立場の間での統一した歴史叙述が可能なのか、と疑問さえ抱いた。

しかし、五十余人の三国の教材委員・執筆協力者が三年間討論を重ねて編集・執筆した本書を手にして、改めてその業績に目を開かされる思いである。構成は、

序章 開港以前の3国
 第一章 開港と近代化
 第二章 日本帝国主義の膨脹と中韓両国の抵抗
 第三章 侵略戦争と民衆の被害
 第四章 第二次大戦後の東アジア

終章 21世紀の東アジアの平和のための課題
 小泉首相の靖国参拝、「つくる会」教科書、従軍慰安婦の「存在否定論」などが、中・韓はじめアジア諸国からきびしい批判を浴びている。

この動きを日本のマスコミ、論壇の多くは、反日ナショナリズムなどにとらえ、その影響は決して小さくはない。

しかし、「過ぎ去った時代の肯定的な面は受け継ぎながらも、誤った点は徹底的に反省することによって、私たちはこの美しい地球でより平和で明るい未来を開拓することができはるはず」との真摯なアピールと未来志向が、心ある人々、特に若い世代の心をゆり動かさずにはいないだろう。

この画期的な試みが、活発な論議をよび起こし、三国国民の未来共有めざす動きの土台となることを切望してやまない。

(異)

第九回国連ツアー

「ノー・ウォー」の決意を世界に広めよう!

今年は戦後六〇年、治安維持法廃止六〇年の節目の年でもあります。一九九七年、第一回ツアーに参加された犠牲者太田まちさん(当時九一歳)はNGOブリーフ(当時九一歳)はNGOブリーフで、治安維持法による人権侵害、謝罪も賠償もしない日本政府の非を訴えました。

今年は六月二十八日現在、十六名の参加申込みです。昨年の「ジャパン・デー」は九カ国五四名の外国NGOのみならず、盆踊りや歌、茶の湯、大道芸などで盛り上げました。メイ・ン・テーマは勿論「ノー・ウォー」憲法九条を守る」です。

メイン・テーマは「九条を守る」

九九年には石川さだのさん、二〇〇〇年には田熊真澄さんがブリーフィングで犠牲者として訴え、犠牲者の家族としては川口学、伊智子さん、朝倉彰子さん、上甲まち子さん等が参加しています。

他団体からの参加も

今年は「国際女性デー」等でビラ宣伝をしたので他団体(母親連絡会・日本国際法律家協会)からの参加もあり、ジュネーブでは国際人権活動日本委員会ツアーとも交流の予定。帰国後の参加者のレポート乞ひ期待。(斉藤久枝)

シンポジウム

戦後民主主義と治安維持法を問う

とき 十月十五日(土) 十三時三十分～十七時
ところ 全労連会館二階ホール

浜林 正夫／一橋大学名誉教授
柳河瀬 精／同盟大阪府本部会長
吉岡 吉典／前参議院議員
平山 知子／弁護士

主催・治安維持法国賠同盟

事務局日誌

- 5月31日 「不屈」編集会議
- 6月4日 都議選大演説会に参加
- 6月7日 憲法映画(ユニカーマ作) 試写会に参加
- 6月11日 全国革新懇総会に参加
- 6月15日 国際人権活動日本委員会に参加
- 6月17日 会計監査
- 6月17日 「不屈」編集委員会
- 6月19日 今野大力70回忌に参加
- 6月20日 葛飾マンション、ピラ配布事件第二回公判に参加
- 6月21日 ひだるか(三池争議映画) 試写会に参加
- 6月24日 都議選告示
- 6月29日 「不屈」編集委員会
- 7月3日 都議選投票日

【訂正】

「不屈」号外(6月15日付)——治安維持法犠牲者への国家賠償法制定を求める請願署名へのご協力ありがとうございました——の本文4行目「三万二千余」は「三十二万二千余」の誤りです。おわびして訂正します。

●「終戦60周年・治安維持法廃止60周年記念号」

『治安維持法と現代』 2005年春季号 好評発売中

【主な目次】 治安維持法撤廃60周年によせて(浜林正夫) 天皇元首化はなにをもたらすか(荏沢忠雄) 横浜事件・再審開始によせて(増本一彦) 「特集・治安維持法の弾圧と抵抗」——治安維持法弾圧と拷問史(近江谷昭二郎)の他、柳瀬正夢・高橋とみ子・市川正一と佐野文夫・尹東柱・伊藤千代子・可児義雄ら犠牲者の生涯。小説・父の召集令状(小口巽) 話題を読む・私の戦争など。資料・横浜事件高裁判決(全文)。A5版・166頁、定価1000円、送料240円、各県本部でお求めください。企画・編集 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

